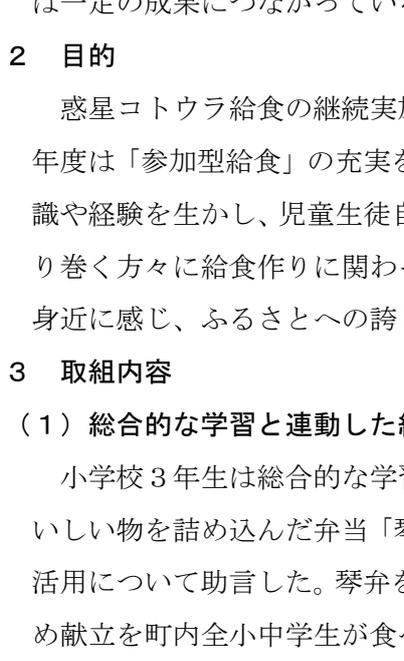
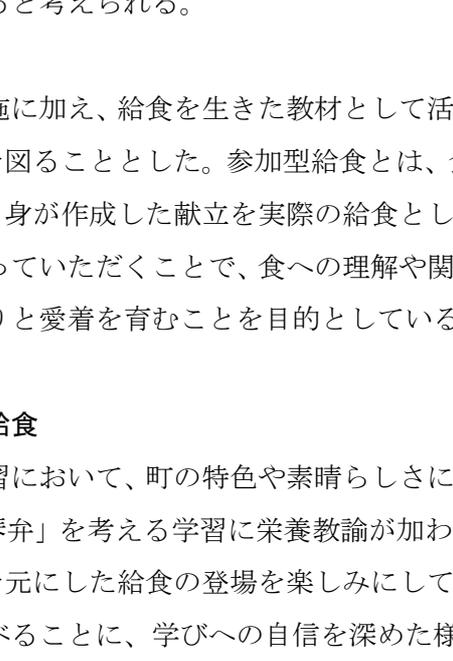
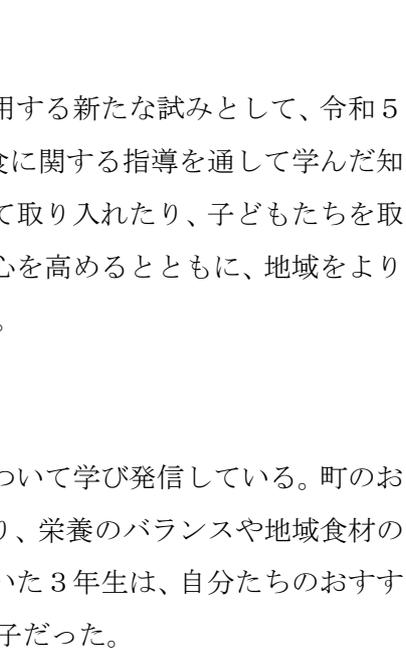


市町村名	琴浦町	
取組の名称	ふるさとへの誇りと愛着を育む「参加型給食」の取組	
<p>1 経緯</p> <p>琴浦町では令和3年度より、栄養教諭を中核に行政や地域の方々と連携し、地域食材や特産品を活用した特別献立「惑星コトウラ給食」を年3回実施している。地元銘菓や町ならではの海の幸、山の幸をふんだんに使用した給食は、毎回好評で残菜もほぼなく、子どもたちが地域の素晴らしさを体感する機会となっている。小学校6年生、中学校2年生を対象とした事後アンケートによると、町の特産品の認知度や、給食を通して町の魅力を感じる児童生徒の割合は高まっていることから、本取組は一定の成果につながっていると考えられる。</p>		
<p>2 目的</p> <p>惑星コトウラ給食の継続実施に加え、給食を生きた教材として活用する新たな試みとして、令和5年度は「参加型給食」の充実を図ることとした。参加型給食とは、食に関する指導を通して学んだ知識や経験を生かし、児童生徒自身が作成した献立を実際の給食として取り入れたり、子どもたちを取り巻く方々に給食作りに関わっていただくことで、食への理解や関心を高めるとともに、地域をより身近に感じ、ふるさとへの誇りと愛着を育むことを目的としている。</p>		
<p>3 取組内容</p>		
<p>(1) 総合的な学習と連動した給食</p>		
<p>小学校3年生は総合的な学習において、町の特色や素晴らしさについて学び発信している。町のおいしい物を詰め込んだ弁当「琴弁」を考える学習に栄養教諭が加わり、栄養のバランスや地域食材の活用について助言した。琴弁を元にした給食の登場を楽しみにしていた3年生は、自分たちのおすすめ献立を町内全小中学生が食べることに、学びへの自信を深めた様子だった。</p>		
		
【総合的な学習】	【学習発表会での琴弁紹介】	【あごカツバーガーをパクリ！】
<p>(2) 家庭科の学習と連動した給食</p>		
<p>中学校2年生が家庭科の学習において、1日に必要な食品の概量を踏まえ、6つの基礎食品群が摂取出来るよう考えた献立を実施した。栄養バランスだけでなく、地場産物や旬の食材が取り入れられた献立に、当日は中学生も、いつも以上に給食内容に注目して会話がはずむ様子が見られた。</p>		
<p>また例年、全国学校給食週間期間中は、小学校6年生が家庭科の学習で作成した献立を実施している。単元を通して栄養教諭が学習に参画し、1食分の献立作成の基礎、献立作成上の留意点、栄養バランスの確認などを学び、6年生全員が献立を作成することが出来た。給食では、各学校の代表1名の献立をそのまま再現し提供した。代表献立の実施当日、浦安小学校では地元生産者や給食調理員との交流給食が開かれた。「6年生が考えた給食を、給食を作ってくれた調理員さんと一緒に食べられて嬉しい。」「自分も6年生になったら、みんながワクワクする給食を考えたい。」等の声が聞かれた。</p>		



【中学校2年生作成献立】



【家庭科】



【交流給食】

(3) 町出身の若手調理員と連携した給食

地域の一員として、地域をよくするために自分が出来ることは何かを考えることをねらいとして、町の小中学校出身の若手調理員と栄養教諭が連携して作成した献立を、「とっとり県民の日」の給食として実施した。当日は調理員が給食時間に浦安小学校6年生を訪れ、「幼少期から料理が好きで、食に関わる仕事に就いた。」「地元の子どものたちの成長を支える給食の仕事に、やりがいを感じている。」など、仕事や地域に対する思いを話してもらった。また、栄養教諭からは、「自分なりの地域貢献のあり方について考える機会にしてほしい。」と、将来の職業選択のみならず、今の自分が地域のために実践出来ることについて考える機会としてほしい旨を伝えた。



【給食時間における指導】

(4) 図書館司書と連携した給食

毎年、読書週間には絵本や小説にちなんだ献立を実施している。今年度は図書館司書と連携し、町内全小学校にある絵本「やきざかなののろい」をもとに丸干しワシを提供した。小学校では事前に読書週間給食特設コーナーを設けたり、該当絵本を読み聞かせするなどして、給食への期待が高まるよう取り組んでいただいた。また、赤碕町漁業協同組合には献立の趣旨を説明し、脂ののった上質な丸干しワシを納品してもらうようにした。当日は、あまり口にしたことのない1尾付けの魚に、はじめは戸惑う児童も見られたものの、「思い切って食べてみたらおいしい!」「骨が上手にとれたよ!」などの声があがり、残菜はほとんどなかった。図書館司書による事前指導の効果を感じた。



【題材とした絵本】



【図書館の特設コーナー】



【読書週間献立】

4 まとめ

いずれの取組も、食育だよりや給食時間の放送資料、給食センターホームページ等を活用して周知を図るとともに、当日は該当学級等において、学びが深まるよう食に関する指導を行った。参加型給食は、児童生徒が給食を「自分事」と捉える経験を通して、改めて食の重要性や町の魅力、自分たちを見守る方々の思いに触れる機会となった。今年度の試験的な取組を次年度の計画や実践につなげ、栄養教諭と地域人材との連携により相乗効果を発揮する「給食を活用した食育」の充実を図りたい。